

女子部が行く！

学会探訪記

第7回 事務局 —学会を支える熱い組織—

レポーター 菅谷みどり（芝浦工業大学）



いざ事務局へ

事務局は何をしているところだろう？ と気になった人は多いのではないのでしょうか。かくいう私もその1人。今回は、事務局組織を取材した内容をお届けしたいと思います。

まず初めに、事務局の簡単な歴史と概要から。事務局は、情報処理学会が1960年に創立されて以来57年に渡り、情報処理学会の成長を支えている組織です。現在常勤の職員は30人（うち女性19人）で、情報処理学会の7つの部門（システム、総務、会員サービス、会誌編集、研究、事業、規格）を通じ、学会のすべての活動を支えています（図-1）。現在は職員の6割強が女性という、女性職員が多い点も特徴となっています。

学会の現状と事務局

事務局が目指すことを理解するにあたり、情報処理学会についての現状について述べます。

情報処理学会は、1960年に発足以来、情報処理の草分け的学会として電子情報技術の発展とともに成長してきました。特に1960年代から1990年代にかけては、平均約1,500人／年ずつ会員数

が増加する爆発的な成長がありました。しかし、1990年代は、500人／年の減少に転じ、2008年には、最盛期2/3まで会員が減るという事態に直面しています。2010年からは、若干持ち直しとなっています（図-2）。これは、事務局が会員と力を合わせて活動をした結果といえます。

事務局の目指すこと

このような背景を強く意識し、事務局は「学会価値の向上」を目標としています。事務局が作成した目標達成のための循環図をご覧ください（図-3）。最も大きいサイクルには、活動の拡大と、会員増、その結果として収益増による経営基盤の安定の循環が描かれています。たとえば、会誌に関しては、面白い読み物、ファンの拡大が会員増や収支改善と結びついています。そのほかにも研究、論文誌、事業、技術応用、規格それぞれすべての事業が、この2つの目標を達成するように設定されています。

経営基盤の安定には、事務局が学会の支援という事業を通じて主体的に利益を上げることが目標としています。下間事務局長の強いリーダーシップにより推進されていますが、収益を上げることで、会員へのサービスを充実させ良い循環をつくることが重要

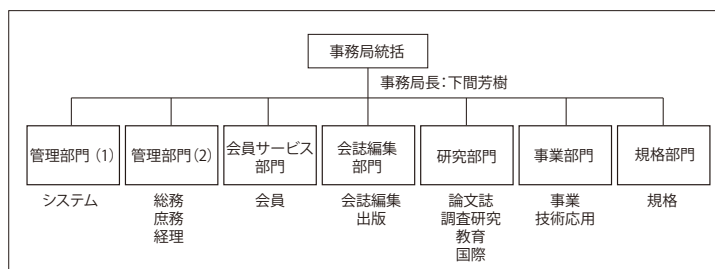


図-1 情報処理学会事務局の組織概略

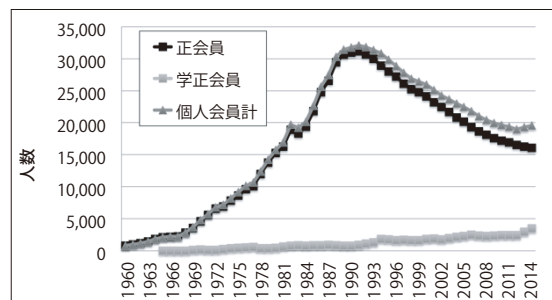


図-2 情報処理学会の会員数の推移

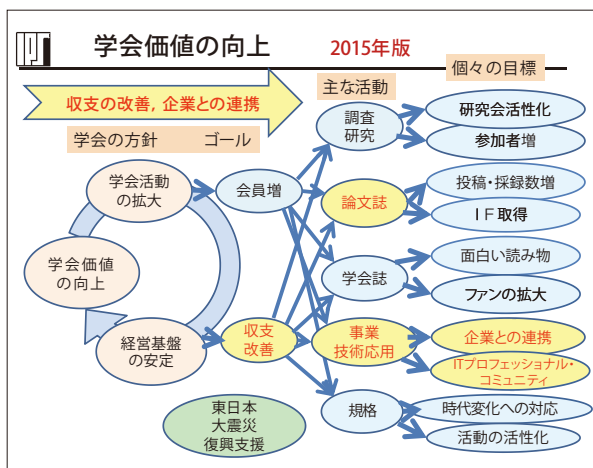


図-3 学会価値の向上 (2015年版)

と認識されているとのことでした。一方で、こうしたアクティビティを下げずに、コスト削減を徹底するなど推進しており、こうした点は、民間組織と考える基本が共通する部分も多いのではないかと思います。

事務局インタビュー

事務局の全体の目標に対して、個々の部門で働く職員の皆さんは日頃、どのような活動をし、思いを持ってお仕事をされているのでしょうか。ここからは、インタビュー形式でお届けしたいと思います。

🎤 事務局長

お仕事：組織長として、事務局すべての部門の統括、サービス管理およびすべての決断。

下間：目標は、会員サービスの充実、収益を上げることです。現在年間6.5億円を扱っていますが、学会は企業の意思決定と異なり、経営判断だ

けではなく、理事会などの意思決定とうまく寄り添ってすすめる必要があることを意識しています。学会の活力を上げて、フロンティアであることを心がけています。難しいのは、情報システムと、会員サービス（何を新規会員サービスにするか）の判断で

下間芳樹氏
(事務局長)

す。判断してから準備に何年もかけて、良い結果ができることが何より嬉しいといえます。

苦労したのは、電子図書館のサイトライセンスです。2008年に電子化した際冊子はやめにして、NIIに電子図書館を作ってもらって公開を始めました。当初は賛助会員にCDを配るなどの工夫を行い、実際の移行には丸2、3年検討してやっと事業に踏み出しました。しがらみなしに新しいことをやるのは比較的楽ですが、過去のサービスを引きずりながら、次のステップに行くのは何倍も苦労します。最近では、この電子図書館は1,500万の収益を上げて、学会の安定運営に寄与しています。いまの学会の問題は、若い人が少ないこと（平均年齢48歳）です。学会にいかにか若い人を取り込むか、IPJSJ-ONEのイベントやその他企画など、積極的に取り組みたいと思います。ぜひイベントに仲間を誘ってきてください。

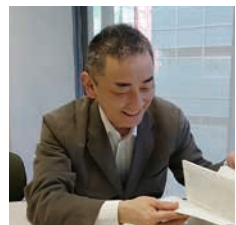
🎤 システム部門

お仕事：システムのおもり

岩瀬：目標は、トラブルを起こさないことです。

苦労話が多いです。何をやってもすんなりいったことがないです。委員会の皆さんにご相談ばかり、日々

ひやひやすることばかりです。現在は、査読システムが、使いづらいということが気になって眠れないです（泣）。苦労するのはIPJSJ独自のルールをシステムの仕様に盛り込みすぎて複雑化してしまっていることです。たとえば会員システムの場合、会員種別によって、サービス、料金が変わるなどです。定期請求が一番苦労して開発しました（たとえば、3枚つづり、一括、前納、後納、個人用／法人用など、研究会をいくつまで無料で入れる、など細かいルールを盛り込んでいるのです）。トラブルがあるたびにWGの方には申し訳ない、という気持ちです。会員の皆様やユーザさんからすると、ちょっとこれは、ということも多いかと思います。ただ、投資できる予算

岩瀬良夫氏
(システム部門マネージャー)

も人材限られておりますので、頑張ってもなかなか思い通りにいかないのが現状です（それ以外も苦労話が続く・・・評判良くない、眠れない・・・）。

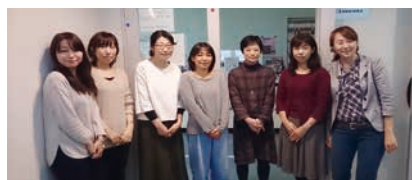
🎤 会誌編集部門

お仕事：情報処理学会誌・出版にかかわるすべての業務に関する事務支援

綿谷：会員の皆様に、気軽に封を開けていただける紙面作りを心がけています。特に会誌は論文誌とは違い、一般読者を対象としています。会誌を読みたいので会員になります、という人が増えるといいなと思っています。当初は、学会報告や論文誌に近い記事が多かったようですが、1997年に石田晴久先生が編集長に就任され、商業誌のように面白くしたい、ということで方向転換して今に至っています。印象に残っている会誌記事は、初音ミクが表紙を飾った特集「CGMの現在と未来」(Vol.53 No.5)でしょうか。話題になり、会誌の存在がアピールできて良かったです。エディタの方もそうだと思いますが、自分のかかわった特集とかが評価されたり、売り切れになったり、評判が良いと嬉しいですね。

逆に辛いのは、原稿が来ないことです（涙）。どうしていいかわからないです（笑）。督促を何度もしても、お忙しい事情により対応していただけなかったり。以前、居留守などを使われた先生などもあり、督促する側も辛かったりします。

訂正記事を出すときも辛いです。もっときちんと



会誌編集部門の皆さんと筆者



学会ノベルティグッズ、初音ミク特集の別刷と会誌付録ページ²⁾

みておけばと思って反省しています。執筆はボランティアで協力していただいているので、執筆して下さる方々が気持ちよく執筆していただくことを心がけています。皆様へのお願いは、ぜひ会誌の封を開けて読んでください！ということでしょうか（封を開けていただけない方がいるということが目下の悩みです）。

🎤 管理部門

お仕事：総務全般、財務全般

鮎川：昨年（2015年）、一昨年（2014年）と学会全体の会員数としては増加したものの、これは学生の会費無料の会員増によるところで、有料会員の数は残念ながら減少傾向が



鮎川 修氏
(管理部門マネージャ)

続いています。特に産業界に属する正会員の減少傾向は際立っておりこの点が悩みです。また、今年度より試行している会費無料のジュニア会員は将来の学会、情報分野を支えていく有望な方々で期待しているところではありますが、会費が有料に切り替わったとたんに会員を辞めてしまわれまいよう、会員を続けていきたいと感じてもらえるような学会活動、サービスの充実を図っていく必要があると感じています。

管理部門の前は、全国大会やFITなどのイベント企画、開催を長くしておりました。中でも印象に残っているのは、学会創立50周年記念の全国大会で約7,000人の方にご参加をいただきました。通例の講演発表とは別に、全部で17トラックの特別セッション企画、大規模デモ展示等も行われ関係委員の皆様のパワーを感じました。また多くの方々と協力して無事に開催することができ感謝の気持ちとともに、安堵と達成感がありました。

目下の悩みは関係委員会で、会員サービス等々を鋭意継続検討です。連続セミナー、ソフトウェアジャパン、CITP（認定情報技術者制度）等、産業界の方々向けサービスの充実化も図っております。あとは会員の高齢化でしょうか。日本全体がそうなのだ

から止むを得ない？のかもしれませんが、ジュニア会員から学生会員そして正会員へという流れをつかっていけるかが課題ではないかと感じています。

📞 会員サービス部門

お仕事：会員データの入力、会誌の発送、問合せに関する回答、会員管理、電子図書館などの使い方に関する問合せ対応、システム部門と共同で担当することも多い



老川ひろ子氏
(会員サービス部門マネージャ)

老川：心がけているのは、メールの問合せを早くに対応することです。電子図書館が見えない、自身が登録されているアドレスが違うなど、迅速対応を心がけていますが、喜んでいただくとそれが嬉しいです。ちょっとした対応で、訴えるぞ！と言われたりして怖い思いをしたこともありますが、現在は個人情報についての名簿は作っていないので（個人情報保護法前にやめていました）最近はまだ問題がないように思います。学会については学生さんが、卒業しても、関連する分野であれば続けていただきたいと願っています。できるだけ若い方に活動してもらえることを期待しています。

📞 研究部門

お仕事：調査研究、国際、論文誌、教育、CITPの関連事務、教員免許更新講習、JABEEなどの教育関係の事務

萩原：研究部門は、研究会の開催支援全般、シンポジウム、登録の申込や請求への対応、40ある研究会すべてと、論文誌編集委員会、教員免許更新講習、JABEE、CITP（認定情報技術者制度）を数名で対応しているんです。やることは多いです（汗）。基本的には研究発表会はルーティンですが、1回ずつ担当者も内容も違うので、その都度新しい発見があります。その対応が楽しくもあり、大変でもあります。海外での研究会実施や、国際会議にしたり、コンテスト併設などいろいろアイデアを企画してくださ

って、自然と支援したい気持ちになります。運営委員の方は任期がありますし、同じ研究会でも人によって考えることが異なるので、新鮮な気持ちになります。

嬉しいことの1つは、研究会のイベントなどが何事もなく、来ていただいて、帰っていただいて、今回のイベント楽しかった！と終わることでしょうか。合宿形式の場合、救急車が呼ばれることもありますし、インタラクティブでは3.11の経験や、本当にいろいろなことがありました。何も事故がないとほっとします。

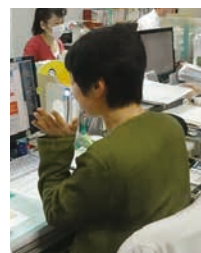
渡辺：シンポジウムや研究会でその土地の人たちとお話できることが楽しみです。ご飯はその土地のものが食べられるのが嬉しいです。

萩原：苦労したのはDICOMOでしょうか。400人くらいで2泊3日。規模の大きい合宿形式です。前泊して準備した上で、朝8時からの受付と、夜12時までの飲み会後の対応など大変でした。研究会やイベントでは、領収書や請求書の区別ができない学生が必ずいますので、説明が結構大変ですが、次にできている場合は嬉しいです。案外覚えてるんですよ。

渡辺：嫌なことですか？ 最近は嫌なことすぐ忘れてしまうので、よく覚えていません（笑）。

📞 事業部門

お仕事：情報処理学会企画の事業、全国大会、FIT、連続セミナー



後路啓子氏
(事業部門マネージャ)

後路：良い企画やイベントにより、スポンサーが集まり、それにより、会員にフィードバックするサービスが良くなる。

その循環をつくるのが私の仕事です。企画される委員の皆さんに頑張ってもらうための土台づくりでしょうか。どうすればニーズにマッチするかを考えています。嬉しかったのは、今年（2016年）の全国大会参加者は3,220名で、例年の中では集客が良い方だったことでしょうか。特

に連続セミナーの企画があたって、何年かぶりに、キャンセル待ちが出ました！ 企画があたるととても嬉しいです。次回の準備も進んでおり、場所などもより良い会場を確保して皆さんに満足していただける準備をしたいと考えています^{☆1}。宣伝もよろしくをお願いしますね。

現在、事業に配属されて2年くらい経ちましたが、覚えることが多すぎて（しかも仕事のスパンが長いので）いまだに覚えきれないのが辛いです。イベントは体力勝負でもあるので、特にそう感じます。この前の全国大会の慶應義塾大学矢上キャパスも毎日朝8時集合でしかも毎日飲んで帰ったのでとても疲れしました（涙）。でも、皆さんの頑張る姿を見ると背中を押される気持ちになります。最後に、ぜひ学会事務局に忌憚のないご意見をいただけると嬉しいです^{☆2}。

インタビューを終えて

学会事務局の皆さんが口々に、誠実に対応すること、会員サービスの向上に努めること、ということをおっしゃっていました。また、会員の活動を一緒に楽しんで、心から支援している様子もとても強く感じました。



事務局の様子

職場では勤続年数も長く、女性でマネージャとして活躍されている方も多いです。また、部

署内、部署間の連携体制もよく、家庭の事情で十分に働けない場合でも、事務局の皆さんで助け合っているとのことでした。毎年の学会がつつがなく、開催されているのも、学会事務局の職員の皆さんのキャリアや経験、素直であたたかい気持ちに支えられているということを実感しました。

これからの学会事務局

情報処理学会の会員は1991年のピークから、会員数は減っていますが、ここ数年は増加に転じています（図-2）。これも、学会関係の教員と一体になり、日々目標に向かい心を砕いている事務局の職員の存在は大きいと思われます。

会員の我々もこうした方々の支えにより成り立っていることを忘れずに精進したいと感じました。最後に、業務中に快く取材にご協力いただいた皆さんに心より感謝します。これからも末永く、よろしくお願いいたします。



学会事務局には、神田大神神のお札が飾られている。例年、職員で学会繁盛とIT情報安全を祈願している。

参考文献

- 1) 情報処理学会 30年のあゆみ：活動の軌跡と技術展望，情報処理学会(1990年10月31日)。
- 2) 梅谷信行：紙飛行機デザインプロジェクトー自由形状をした滑空機の対話的な最適化ー，情報処理，Vol.57, No.4, pp.330-333 (Apr. 2016)。

(2016年3月3日受付)

^{☆1} 連続セミナー 2016, <http://www.ipsj.or.jp/event/seminar/2016/>

^{☆2} 会員の意見箱, <https://www.ipsj.or.jp/annai/other/ikenbako.html>